

教 区 報

第107号 2017年6月

日本ハリストス正教会教団 東日本主教々区

発行：東日本主教々区宗務局

〒980-0021 仙台市青葉区中央3丁目4番20号

電話 022-225-2744 fax 022-224-3080

振替 02200-2-30428 「東日本主教々区宗務局」



<http://www.orthodox-sendai.com/>

orthodox@hyper.ocn.ne.jp

聖神降臨祭



崇め讃めらるる哉
ハリストス我等の神よ、

爾は漁者に聖神を遣して
睿智者と為し、

彼等を以て世界を漁し得たり、
人を愛する主よ、光荣は爾に帰す

— 聖神降臨祭トロパリ —

神の愛の道を通られ、主は天より地に
来られた。そして主・イイサスは私たち
を救いに招く戒めを教え、十字架を負
い、復活されて四十日目に昇天され、主
は再び、愛の道を通られて地から天に帰
られた。天に昇られる主の姿を見送る
人々に聖神（せいしん）を送ることを約
束され、果たして復活の五十日目に聖神
は降された。

かつて旧約の民は「過ぎ越の祭り」か
ら五十日目にモイセイによって十戒を与
えられたように、いま新約の教会の民は
復活祭、昇天祭を終え霊的な炎をうけて

聖神降臨祭を喜ぶ。神・聖神は熱を
もってひとり一人の信仰を暖め、光を
もって正しく導き、漁夫に知識を与えて
福音は伝わり、今世界は神の光に照らさ
れる。私たちは至聖三者（しせいさん
しゃ）の前に跪き、心と舌を一つにあわ
せて称え、願ひ、次のように祈る。

『天の王、慰むる者や、真実の神、在
らざる所なき者、満たざる所なき者や、
萬善の宝蔵なる者、生命を賜う主や、来
たりて我等の中に居り、我等を諸々の穢
れより潔くせよ、至善者や我等の霊を救
い給え』



2017 主の復活大祭

**ハリストス復活！
実に復活！**



Christ is risen!

Indeed, He is risen!



4月15日(土)夜11時半、仙台正教会ではセラフィム大主教座下が入堂され、復活祭夜半課が始まった。参拝者は蠟燭を手にしながら十字行を待ち、いよいよ眠りの聖像が宝座に移されると隊列を組んで穏やかな春の風がそよぐ中、聖堂を一周した。聖堂入口に整列し、高らかに打ち鳴らされた鐘が止み、セラフィム大主教座下の高声で早課が始まった。ハリストス復活！実に復活！」と応答し、聖堂に入ると煌々と蠟燭が灯され、聖歌隊の軽快で喜び溢れる聖歌が響き渡った。

多くの外国人信徒も参拝し、真夜中の領聖には子供達も眠い目をこすりながら並んだ。十字架接吻では一人ひとりにセラフィム大主教座下からハリストス復活！との声を掛けられ、紅卵を頂いた。会館での祝賀会は夜明け頃まで続いた。



教区内の各司祭在住教会においても4月16日に一斉に復活大祭の奉事が執り行われた。

釧路ではこの日聖体礼儀前にハリトン北野兄の洗礼機密が行われ新たな光照者が誕生し、喜びもひとしおの復活大祭となった。参拝者は34名。肌寒いが温かな春の到来を予感させる一日だった。

札幌は百名を超える参拝者が集まった。聖堂に並ぶ卵やクリーチの籠も55台を数え、晴れやかで賑やかな復活大祭となった。祝賀会も趣向を凝らした内容で信者一同上機嫌のうちに散会した。

函館も天候にも恵まれ、約70名が復活祭を共に慶び祝った。祝賀会では、食卓を色鮮やかに飾る卵、クリーチ、パスハを始め、ボルシチや久しぶ

りの肉料理などを味わいながら懇親を深めた。

盛岡も天候に恵まれ参拝者は40名を超えた。祝賀会への出席も30人を超えて満席状態となった。婦人会が準備したご馳走で歓談に花が咲き、水口神父様の「復活祭クイズ」で盛り上がった。

一関は伝統的な真夜中の復活大祭を行っていた。日形からも3名参拝し、祈祷後は司祭館で祝賀会が開催された。午後からは墓地に向かい、復活後のリテイヤを献じた。

石巻は16日朝の復活大祭。こちらも穏やかな日とで家族的な雰囲気の中、和気あいあいとした復活をお祝いした。今年の祝賀会はバーベキュー。何よりのご馳走を頂きながら懇談した。



釧路



札幌



函館



盛岡



一関



石巻

ワシリイ加藤神父から大主教座下にお祝いが手渡された



セラフィム大主教座下聖名祭

1月15日(日)にセラフィム大主教座下の聖名祭であるサロフの聖セラフィム祭と主日聖体礼儀が行われた。祈禱の最後に大主教座下へ仙台正教会から花束と、婦人会・方舟会・聖歌隊と東日本主教々区の神品一同からお祝いが贈られた。大主教座下からは感謝のお言葉があり、最後に幾年もを参拝者一同で唱和した。

祈禱後は教会近くのレストランに場所を移し、教会新年会と併せて大主教座下の聖名祭をお祝いした。アキラ笹川執事長の挨拶で始まった祝賀会は多彩な余興が披露されて和やかなうちに進み、大主教座下の益々のご健勝を願った。

◀ 祝賀会場にて

▼各代表と共に
記念撮影



東日本大震災被災永眠者記憶祭

3月11日(土)、大斎スボタの死者の聖体礼儀で仙台正教会の全永眠者と東日本大震災の被災永眠者を記憶するパニヒダが、また翌12日(日)の主日聖体礼儀終了後には再度被災永眠者のパニヒダが行われた。仙台では現在も毎主日に震災で亡くなった方々が記憶されている。



静岡正教会新聖堂成聖式 2/19



▲新聖堂の内部（上）と外観（右）



▲徹夜祈後、不朽体をイコノスタスの前に安置



▲宝座を成聖するダニイル府主教座下とセラフィム大主教座下



▲祝辞を述べられるセラフィム大主教座下

2月19日(日)、静岡ハリストス正教会「生神女庇護聖堂」にセラフィム大主教座下が赴かれ、ダニイル府主教座下をはじめとする東京大主教教区の神品と共に成聖式が挙行された。

一九五九年に建てられた初代聖堂（ちなみに盛岡正教会の現聖堂は一九六〇年に旧静岡正教会を参考にして建てられた外観が瓜二つの聖堂です）は老朽化と耐震強度が下回るために建て替えが決められ、外観に旧聖堂の面影を残し、既存の信徒会館と調和のとれた聖堂が設計されてこの度建築工事が完了したものである。

成聖式には約一五〇名の信徒が集って盛大にお祝いされ、聖体礼儀では管轄のディミトリイ田中神父が金十字架佩用の祝福を賜り、またセラフィム大主教座下はお祝いの言葉を述べ、記念に生神女庇護聖像を静岡正教会に贈られた。



▲信徒会館で行われた祝賀会

正教会の言葉



日本正教会では、「霊(れい)」ではなく「神(しん)」という独特の用語を使用しています。聖書の伝統には、人を「肉体」と「霊」と「神」に分けて見る見方があります。英語で言えば、Body と Soul+Spirit です。ギリシャ語ではソーマ、プシケー、プネウマです。難しいのは、「霊」と「神」の区別です。明確な線引きや定義づけが困難ではありますが、説明の一つとして、動物には「肉体」と「霊」しかないが人間には「神」がある、ということができるだけでしょう。すなわち、「神」は人間と動物を区別する要素と言えます。

動物に「心」はあるでしょうか？ もちろん、犬はしつぽをふつて喜び、ネコは毛を立てて怒りを表し、馬は涙を流して悲しみ、猿は仲間と戯れて楽しむでしょう。そういう意味では「感情」という名の「心」は、動物たちにもあります。これは「霊」の一つの要素かもしれません。こうした感情は「霊」をもつ「人」にも「動物」にもあるわけ

しかし、実は、聖書の用語においては、「霊(ヘブライ語「ネフシユ」ギリシャ語「プシケー」)」は、どちらかというと「肉体」の方の範囲により近いものです。聖書の中での「霊」は、「生命」とも訳せます。

一方、「神(ヘブライ語「ルーアッハ」ギリシャ語「プネウマ」)」は、まさに「見えない部分」であり、動物にはなく人間にしかないものです。一例をあげれば、「自由意志」の所在と言えるかもしれません。もしそ



▲天地創造の時に水の上を覆育する

神について 司祭 ダヴィド 水口優明

うなら、人が罪を犯すのは、「神」がある故と言うことができます。「神」を持たない動物には「罪」はありません。泥棒ネコは、窃盗罪を犯したネコではなく、「泥棒をした」と、人間の徳の観念から「人間によつて評価された」ネコにすぎないのです。言い方を変えれば、「道徳」というのも「神」のなせる業です。他にも「愛」「信仰」「希望」「祈り」といった、動物にはない要素も「神」の部分です。

一般では、こうした「霊」と「神」の区別をあいまいにしている、すべて「霊」で片付けてしまっている、ので、正教会の「神」の見方が分かりにくく感じることでしよう。そもそも「プネウマ」に相当する日本語がないところに苦勞があります。日本正教会は、苦肉の策として、「プシケー」には「霊」という漢字を当てて「たましい」と読ませ、「プネウマ」には、「神」という漢字に「〇」を付けて「しん」と読ませることにしました。「神」という漢字は、一般では通用するものではありません。それで、右肩の〇はつけずに単に「神」という漢字に「しん」とルビを振って表記することもありますし、文脈や熟語から振り仮名をつけなくとも、「しん」であることが分かるようにすることもあります。

ただし、「神」という漢字を「プネウマ」という意味で使用することは、正教会という限定された世界のみでの用法ではなく、実は、すでに一般に浸透して使用されているとも言えます。例えば、「精神的」の「神」は「神(かみ)」ではなく「神(しん)」という意味ですし、「神父(しんぷ)」も決して「神(かみ)」のような父」という意味ではなく、「神の(スピリチャルな)父」という意味です。この人間の「神」という言葉を借りて神様の神を表すときに「聖神」といい、至聖三者の神の第三位を指す言葉として使われるのです。



4/19 釧路



3/3 一関



4/18 札幌



12/4 仙台



復活祭に向けて各地では洗礼機密が相次いだ。洗礼はハリストスと共に歩む信徒となる第一歩であり、教会にとっては新しい兄弟姉妹が増える大いなる喜びである。洗礼を伝える各地の写真を見ると、光照者はどこか晴れやかであり、代父母や参拝者は新たな仲間の門出を祝って皆笑顔である。

洗礼は私たちの教会の存続に欠くことが出来ないのはもちろん、これを導く福音宣教は我々信徒の共通の使命である。一人でも多くの方々を招いてハリストスの恵みに与らせ、自らもそれを通して一層豊かな信仰を育むことが求められている。皆で励まし合い働きかけ合いながら多くの光照者を得て次代につなげたい。



3/2 函館



4/23 高清水



4/9 仙台 合同洗礼



12/24 上下堤



全国神品会議の開催

2/8-9 東京



2月8日(水)、9日(木)の二日間にあたり、本会信徒会館において「全国神品会議」が開催された。これまでも神品の研修として宣教・牧会を主テーマとして回を重ねてきた。今回は「聖職者のあり方」を主題にして、詳細な事前アンケートを基に熱心な討論と懇談が行われた。

管轄司祭として日頃の心構えや具体的な実践・対応例の交流は、改めて各教会における新しい取り組みを喚起する上で貴重な機会であった。閉会にあたりセラフイム大主教座下は信仰の始まりは福音を聞く事であり、その役目を担う我々の責務は大きく、また尊いものであると励まされた。

特別講話「イコンのお話～山下りんのイコンを読み解く」

盛岡正教会で定期的に行っている「婦人会交流会」を拡大して、一般の人々にも大々的に宣伝して正教会を知ってもらう機会にしようという企画をたて、4月29日(土)に特別講話を行った。

インターネット、チラシ、ポスター、新聞などをとおして、告知したところ、60人近くの参加者がありました（そのうち信徒以外は45人）。後日、盛岡タイムスという新聞にニュースとして大きく掲載された。

水口神父は、イコンとは何か、その色や形にはどんな意味があるのかなどを解説した後、実際に山下りんのイコンを見ながら、それらが如何に「イコン」であるかを読み解きました。





▲篠永神父による講話に学ぶ

北海道ブロック誦経奉仕者研修会

1月27-29日の日程で札幌正教会を会場にして標記研修会が開催された。篠永神父による「教会と奉神礼と機密」、内田神父より誦経の実技指導が、また3日目は信徒学びの会として聖体礼儀終了後にニコライ神父から「日本正教会の黎明・北海道の正教伝道」の講話を頂いた。

最後の懇談会では、今後の研修会の在り方を含めて活発な意見交換が行われた。



▲内田神父の実技指導



▲一関正教会聖堂で行われた宣教会議

東北ブロック宣教会議の開催

2月2日(木)には第2回の宣教会議が一関で、また5月11日(木)には宣教委員と各教会執事長を集めて拡大宣教会議が開催された。

2月の会議では次年度に向けた計画の原案を討議、加えて教区全体に関わる教区報やリーフレット作成に関する意見交換も行われた。

5月の拡大会議では各教会の近況報告が行われ、また次年度の計画が提示されて、各教会が協力して臨むことを確認した。



▲町の復興の様子を伝える山田の白土執事長





■釧路正教会 1/19
ハリサノンヲ藤田敏彰、フエオトヲ澄子ご夫妻が金属製の立派な凱旋旗を献納。感謝！



■盛正教会 4/23
今年も堂役揃い、踏み。頼もしい助っ人と共に真夜中の復活祭は無事行われた。

東北・北海道 各地のニュー

■白河正教会 4/23
境内地の舗装と司祭館の修繕が行われ、美しく整備された。懸案だった改修が終了し、復活祭前に成聖された。



■石巻正教会 5/1
念願の教会共同墓地が完成。教会から近い日和山霊園に建立された。5/1に成聖。



■遠野正教会 1/22
京都正教会のパウエル及川神父様のお計らいにより、12大祭と復活祭のイコンがアメリカ在住の中井さき姉から贈られた。感謝！
また2/5には水道の引かれていない会堂のために井戸を掘る予定だった場所が開れて塞がれたままだったが、改めて「井戸を掘り始める時の祝文」が折られ、工事を再開することとなった。



■石巻正教会
復活祭後の廻家祈禱が始まり、前管轄司祭のワシリイ田口神父様をご訪問。マートンカと共にご在宅。お元気で過ごしています。



■仙台正教会 4/9
モスクワ国立音楽院日本音楽研究員のナタリヤ・クロヅコワ姉は仙台を訪れ、ロシア正教会聖歌の歴史の講義を行った。2週間の滞在中近隣の沢山の教会も訪問されて交流を深めた。



教会学校夏季修養会



是非ご参加下さい。
お申込みは各教会まで。

公 示

東日本主教々区各教会
教役者及び信徒代議員 各位

十ハリストス復活！

二〇一七（平成29）年度東日本主教
教区「教区会議」を左記の日程により
開催します。

記

一、場所 札幌ハリストス正教会

二、日時 6月25日(日)13時より

以上、公示します。

平成29年5月23日

日本ハリストス正教会教団
東日本主教々区
仙台の天主教 セラフイム

人物消息

— 敬称略 —

（2016年12月～2017年4月）

◆永眠「教会名・聖名・氏名・永眠日」

斜里	マリヤ	佐藤京子	4月30日
函館	ルキヤ	西橋曜子	11月4日
	アキラ	宮崎 昭	2月13日
盛岡	ロマン	高橋 兌	1月25日
	エレナ	森谷孝子	2月18日
岩谷堂	イアコフ	中村二郎	1月10日
盛	ペートル	伊勢捷三	2月15日
金成	ソフィヤ	佐藤チエ	4月27日
石巻	メラニヤ	中館匡子	12月23日
高清水	ニコライ	木村文雄	3月15日
上下堤	フェオドル	浅野友勝	4月4日
佐沼	ダリヤ	佐々木伸子	4月14日
仙台	ペートル	山本 昇	1月6日
	ナタリヤ	齋藤茂子	1月28日
	マリヤ	森田三枝	4月29日
白河	アキリナ	秋野美代子	2月23日
福島	イヤコフ	平塚昭男	12月15日

※永遠の記憶をお祈りいたします。

◆洗礼「教会名・聖名・氏名・受洗日」

釧路	ハリトン	北野誠一	4月16日
札幌	アンナ	小笠原真由子	4月18日
函館	セルギイ・エリョミン		3月21日
	ドミトリイ・アレクセーエフ		3月21日
	ダニイル・イワノフ		3月21日



◆婚配「教会名・聖名・氏名・婚配日」

白河	ニコライ・ジャスティン・ビンガム	4月23日
	イリナ・祥子・ビンガム	

※婚配おめでとうございます。

※洗礼おめでとうございます。

一関	ソフィヤ	藤堂ミキ子	3月3日
	ウエラ	小野寺志衣	3月3日
仙台	ソフィヤ	小野初美	12月4日
	ウエラ	小野 怜	12月4日
	アンナ	鈴木えりか	4月9日
	マリヤ	鈴木テレサ	4月9日
中新田	ゲオルギイ	工藤雅哉	4月9日
	フェオドラ	工藤久恵	4月9日
上下堤	ニコライ	浅野 樹	12月24日
高清水	ワルワラ	木村安希	4月23日